大阪湾水先区水先人会（兵庫県神戸市）

困難なほどやりがいがある

多様な船舶、船員に誠実に向き合う水先を目指して

コンテナ船のブリッジ（注）から、本船前方を臨む。船舶の種類や大きさにより、ブリッジからの眺めも千差万別であり、コンテナ船の場合、積み荷のコンテナが視界の一部を遮るため、操船には神経を使います。
注　ブリッジ（Bridge）とは、船の操縦を行うスペースです。船の前方をできるだけ広範囲に見渡せるよう、高い場所に設置されていることに由来しています。

水先区の紹介

日本有数の港湾を擁する海域

大阪湾水先区は、大阪湾の出入口である友ヶ島水道から湾内の阪神港（神戸区、大阪区、堺泉北区）及び阪南港の約 400 強の岸壁や桟橋を含む係留施設への嚮導（注）と瀬戸内海を担当する内海水先区への中継地点である明石海峡東口までの嚮導を担当する水先区です。現在の所属水先人は、その水先免許の種類が一級から三級まで分かれたことにより年齢構成は 20 代から 70 代までと幅広く総数 105 名となります。うち女性水先人は 2 名です。

大阪湾内の港には、天然ガス、石油製品、衣類や家具、日用品、穀物、果物など、私たちの日常生活に必要な様々なものが船舶によって外国から輸入され、また車や鋼材などの工業製品が外国に輸出されています。そのため、これらの輸送に携わる船舶もコンテナ船、自動車船、バルカー船、巨大油槽船、LNG 船、客船等すべての種類とその大きさ（トン数）も多様化しています。

また、大阪湾は漁業が盛んな海域でもあります。豊かな資源を糧とする漁業と海上輸送が共存している海域と言えるでしょう。

注　嚮導（きょうどう）とは、先に立って案内することの意味ですが、水先人の仕事を表す意味で使われています。

ブリッジで嚮導する榎本宣子二級水先人。乗船中は、本船の乗組員から自分の仕事に対する姿勢を常に観察されているように思います。自分がもし乗組員だったら、という視点はいつまでも持っていたいです。

水先人を目指した理由

学校卒業以来、船員としての勤務に励む中で、何かもう一つ自分の可能性をもって挑戦するようなことがしたいと思うようになりました。このような時期に水先法が改正され新制度となり、船長経験がなくとも、水先人になれる道が開かれ、水先人を意識するようになりました。制度発足から 4 年目に、それまでの海上職の経験が生かせる水先人の世界へチャレンジする決心がつき、この仕事を選びました。

乗船直後の挨拶は「よろしくお願いします」という気持ちで、本船のキャプテンだけでなく、できるだけ顔を合わせた乗組員にもします。挨拶がきちんとできたら、BRM（注）もスムーズになるように思います。
注　BRM（Bridge Resource Management）とは、船橋で水先人が航海当直をする船長・乗組員と共に役割分担しチームワークを発揮して船舶を運航することを言います。）

水先業務におけるやりがい

強風時や船舶の輻輳が集中するときなどで、想定している状況が変化することがあります。かなり緊張もし、技術的負荷も増え対応に苦心することもあります。ですが、こんな時ほどやりがいを感じるものです。自分が考え精一杯やったことに対して、結果として本船のキャプテンから「ありがとう」と言ってもらえることが最大の喜びです。

取り組んでいる水先人会の概要

大阪湾水先区水先人会

代表者：小見山純郎（会長）
所在地：兵庫県神戸市中央区波止場町１－５
事業内容：水先業
会員数：１０５名
（令和元年６月時点）